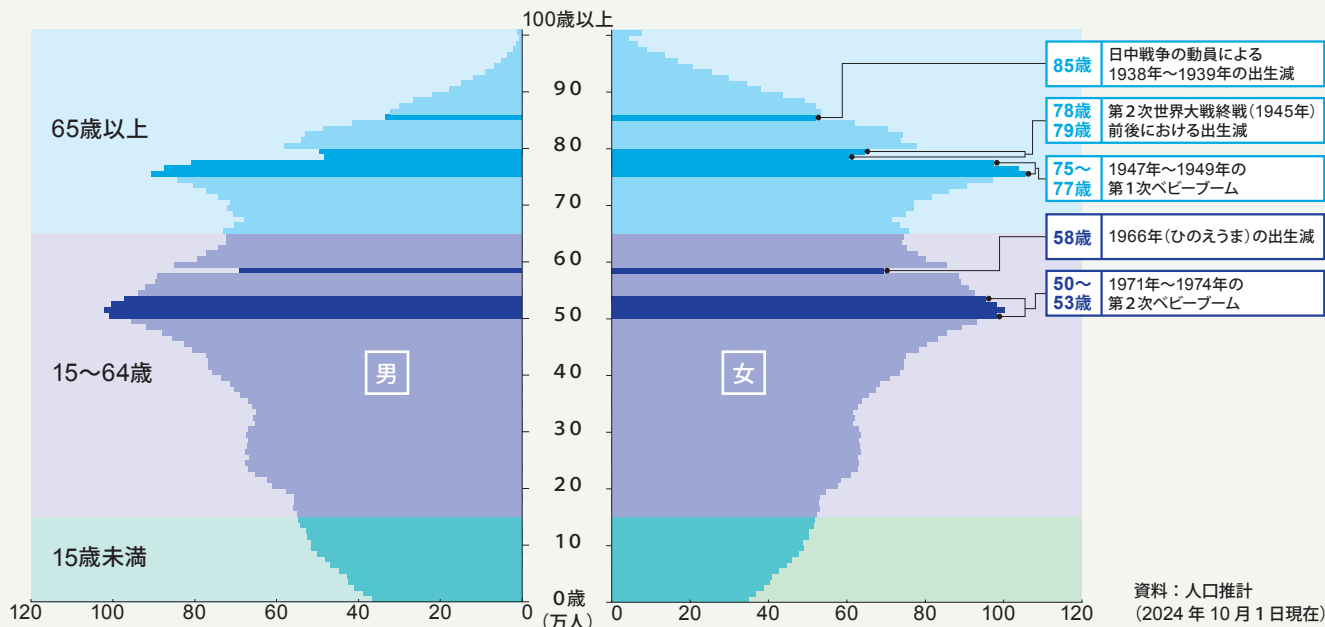


1 日本の人口

2024年10月1日現在の日本の人口は1億2380万2千人

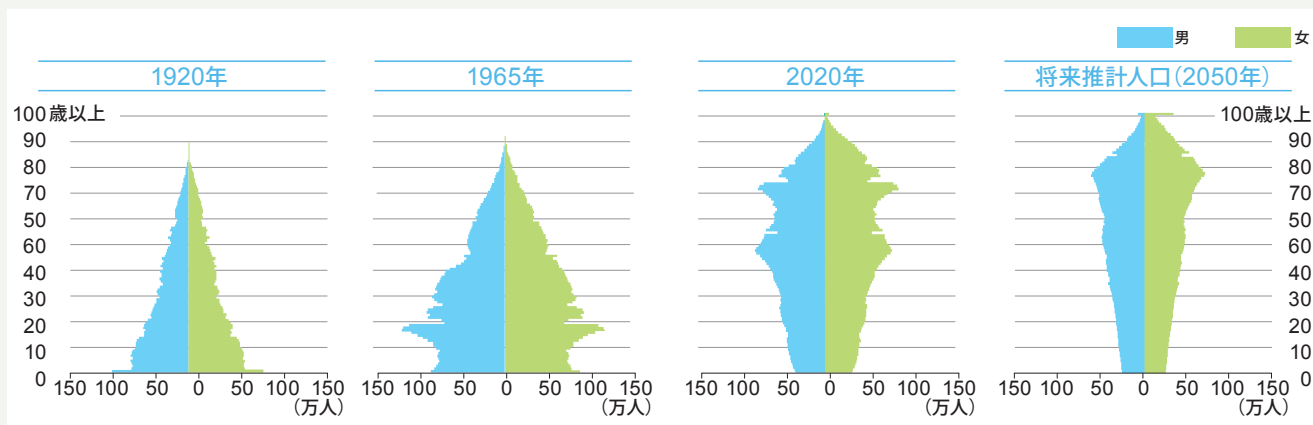
人口ピラミッド(2024年10月1日現在)



人口の年齢構成は時代とともに大きく変化

人口ピラミッドの推移

人口の年齢構成の変化は、人口ピラミッドの形の変化に明白に現れています。



1920年

1920年の人口ピラミッドは、若い年齢ほど人口が多く裾野の広い、正に「ピラミッド」のような形をしており、1950年頃まではこの形が続いていました。

1965年

1965年の人口ピラミッドは、1947～1949年の第1次ベビーブーム後に出生数が減少したため、16～18歳をピークとする大きな膨らみを持ち、その下の年齢階級がすぼまった形となりました。

2020年

2020年の人口ピラミッドは、第2次ベビーブームの1970年代前半における出生数の増加とその後の出生数の減少を反映し、71～73歳及び46～49歳をピークとする2つの膨らみを持ち、その下がすぼまった細長い「つぼ」のような形となっています。

注：2020年は不詳補完値による。

資料：1920年、1965年、2020年は国勢調査結果。2050年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)」(出生中位(死亡中位)推計)

外国人人口は274万7千人で2015年から43.6%増 国籍が「中国」の者が66万7千人と最も多い

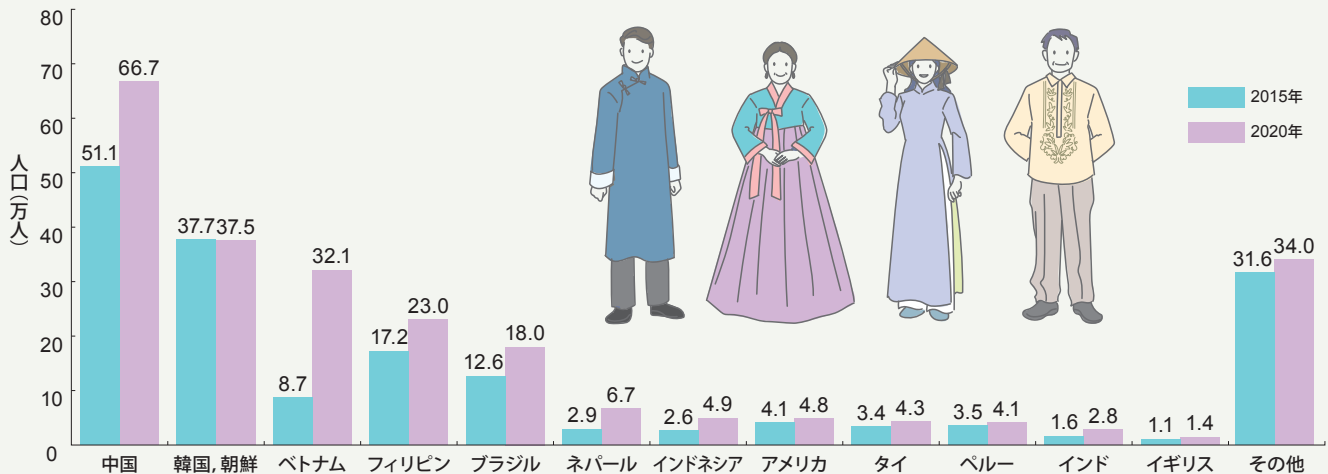
国籍別外国人人口 -全国(2015年、2020年)

2020年10月1日現在、総人口(1億2614万6千人)のうち外国人人口は274万7千人(総人口の2.2%)で、2015年と比べると、83万5千人(43.6%)の増加となっています。

国籍別に外国人人口をみると、「中国」が66万7千人と最も多く、次いで「韓国, 朝鮮」が37万5千人、「ベトナム」が

32万1千人などとなっています。

2015年と比べると、「ベトナム」が23万4千人の増加、「中国」が15万6千人の増加などとなっています。一方、「韓国, 朝鮮」は2千人の減少となっています。



注1: 外国人人口の総数は不詳補充値、国籍別の人口は原数値による。

注2: 国籍「その他」には、無国籍及び国名「不詳」を含む。

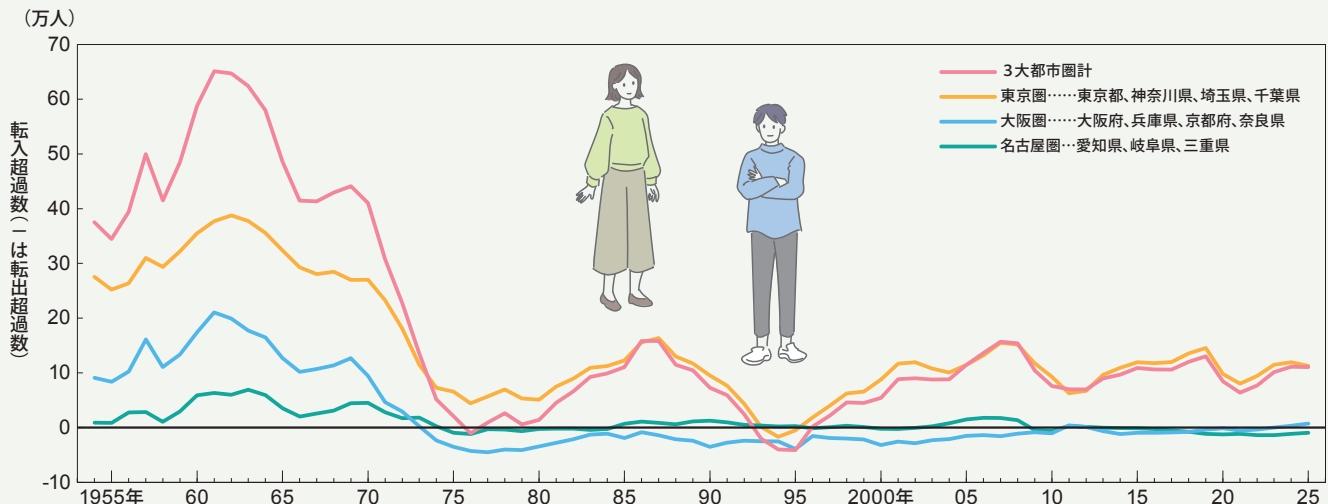
資料: 国勢調査結果

東京圏は30年連続の転入超過

3大都市圏の転入超過数※の推移(日本人移動者)(1954年~2025年)

3大都市圏(東京圏、名古屋圏及び大阪圏)の転入超過数をみると、3大都市圏全体では11万680人の転入超過となり、前年に比べ614人の縮小となっています。東京圏は11万2738人の転入超過となり、前年に比べ

6599人の縮小、30年連続の転入超過となっています。名古屋圏は9561人の転出超過で、前年に比べ1956人の縮小となっています。大阪圏は7503人の転入超過で、前年に比べ4029人の拡大となっています。



※ 転入者数から転出者数を差し引いた数。転入超過数がマイナスの場合は、転出超過を示す。

資料: 住民基本台帳人口移動報告

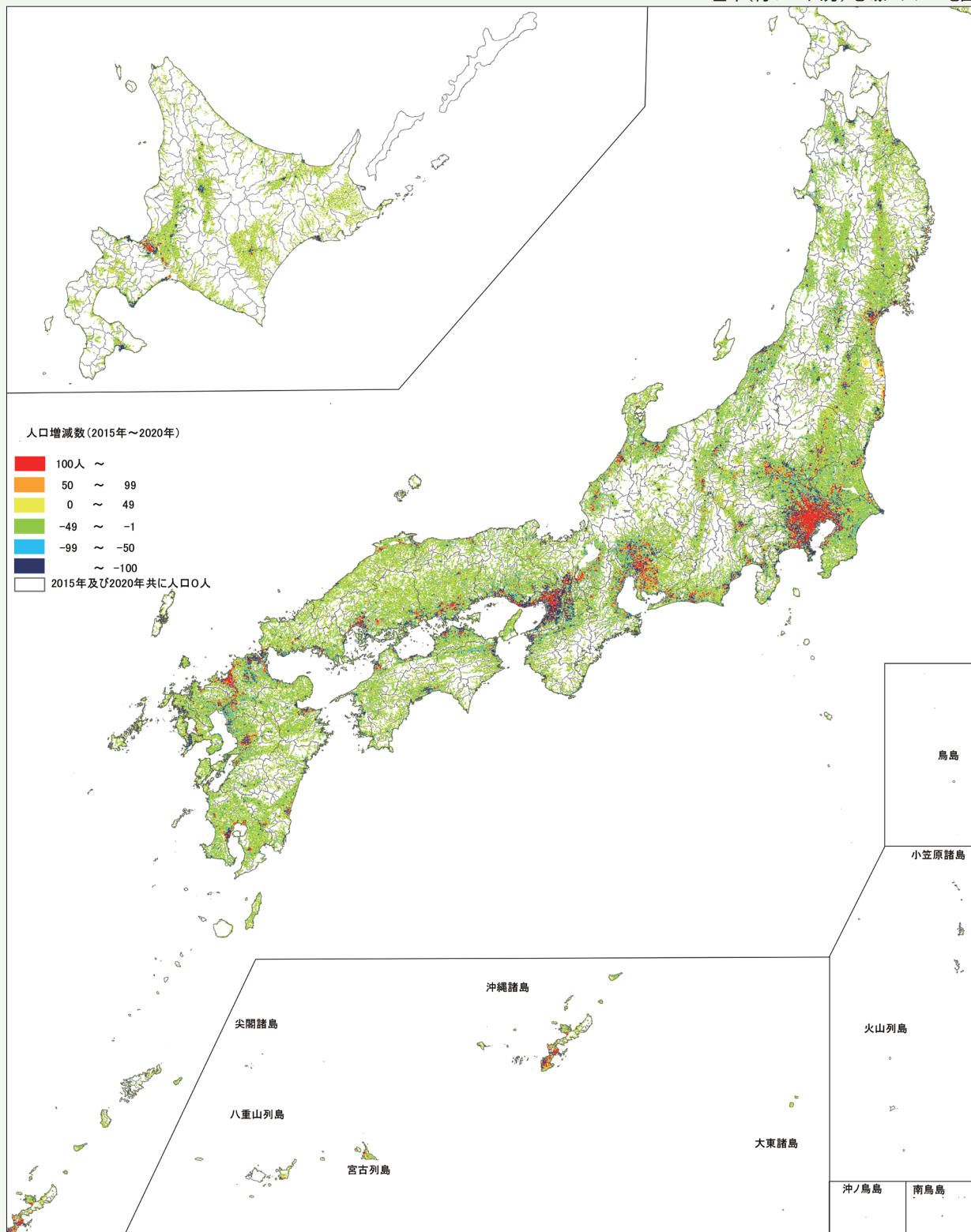
地域メッシュ統計でみる人口増減数

令和2年国勢調査に関する地域メッシュ統計※ -人口増減数(2015年～2020年)

2015年から2020年までの人口増減数を約1km四方の基準地域メッシュ地図に表したものです。

人口増減数の分布をみると、全国的には「-49～-1人」の区分(黄緑色)が最も多くなっていますが、関東大都市圏、中京大都市圏、近畿大都市圏や政令指定都市などの地域には「100人以上」の区分(赤色)が多く、人口が増加していることがわかります。

基準(約1km四方)地域メッシュ地図



※ 地域メッシュ統計とは、緯度・経度に基づき地域を隙間なく網の目(メッシュ)の区域に分けて、統計データをそれぞれの区域に対応付けて編成したものの注:都道府市区町村境界は、「国土数値情報(行政区域及び湖沼データ)」(国土交通省)を加工して作成